第４回／第５回：公園での体験と声かけ

（1）プログラム

□日　時：９月１日（日）　10：00～16：00

□会　場：江東区文化センター５階　6,7,8 会議室

□内　　容：

＜水辺や自然を五感で楽しみ作品をつくる（大人の夏休みの宿題づくり）＞

・江東区の魅力のひとつである、水辺に場所を変えて、「声かけや会話」を集めコミュニケーションについて考えました。

・あわせて、アイマスクをして音を聞いたり、風を感じたりして楽しみ、作品づくりを通して声かけについて考えるワークショップを行いました。

【進め方】

１）「最初の声かけ」について考える

２）場所の魅力を感じ、会話を通して（いろいろな人に）魅力を伝える

１次情報（現地の掲示板、ホームページ、冊子など）で概要を知る

⇩

２次情報　現場で感じる、考える（伝えるための核になるもの、個人が感じたもの）

⇩

いろいろな人に伝える（初対面の人、通りがかりの人、車いすやベビーカーを使っている人、視覚障害のある友人など）

□タイムテーブル：

第４回（午前）

10：00（05 分）【開会】あいさつ

10：05（30 分）【今日の進め方】趣旨説明 / 仙台堀川公園の説明

10：35（125 分）【まち歩き】江東区文化センター⇒仙台堀川公園⇒江東区文化センター

１）公園に移動しながら「最初の声かけ」を考える（個人ワーク）

２）体感する　＜グループ分け⇒グループワーク　30 分＞

１：景色を眺める

２：空（上）を見上げる

３：土や水、植物に近づく（視点を低くしてみる）

○生き物、花、実を見つける

○においをかぐ

○触れてみる

４：アイマスクで音を聞く

５：傾斜を感じる（歩道、水辺、樹林地）

３）この場所の魅力を考える＜フセンに書き出してグループで共有　20 分＞

○この場所で、どんなことをしたいですか？

○こどもの頃、こんな場所で遊んだ楽しい記憶はないですか？

４）この場所の魅力を表現して、他の人に伝える

<個人作業 20 分＋お互いに表現を聞いたり体験したりして感想を言い合う 30 分>

○この場所の魅力を、誰に、どんな風に伝えたいですか？

※初対面の人の場合は？　　※いっしょにいる人、活動している人とは？

例：鳥の声を視覚表現してみる（こども、聴覚障害者）

：水辺で遊んだこどもの頃の楽しい記憶を絵や詩で表現してみる（こども、保護者）

：果実の香りを、言葉や色で表現してみる（こども、視覚障害者）

：遊歩道の傾斜を測る（車いす、ベビーカー、足が悪い人）

：車いすトイレまでの距離、アクセシブルルート

：水に触れた面白さを、写真や詩で表現する（こども、車いす、視覚障害者）

○声かけポイント、情報ポイントを検討する

※声かけポイント：声をかけたりおしゃべりをするのによいポイント

→他の場所でも応用できる

※情報ポイント：公園の情報があるポイント→追加のアイデアもだしてください

12：40（60 分）　～休　憩～

第５回（午後）

13：40（80 分）【グループワーク】まち歩きのまとめ

・まち歩きをしながら考えた作品や、声かけのポイントを模造紙に書き出す。

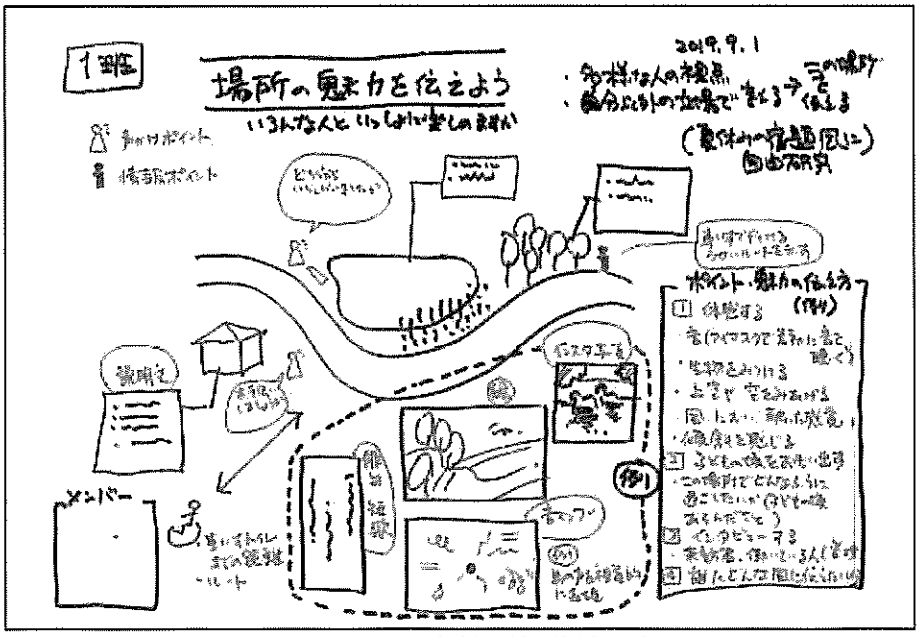
・１グループ１枚をつくる。（画用紙、絵の具、クレヨンなどは事務局が用意）

15：00（10 分）　～休　憩～

15：10（40 分）　【発表と全体での意見交換】

15：50（10 分）　事務連絡、アンケート記入

16：00　　終了



まとめのイメージ（当日配布資料より）

（２）横十間川、仙台堀川まち歩きマップ

（当日配布資料より）

手洗い洗車TSK
ジーディー自動機械(株)
警視庁 城東警察署
妙久寺
南砂五差路
志演尊空神社
306
474
松島橋北
幸田自動車工業(株)
藤崎病院
松島橋公園
いこいの森
ヤマダ電機 ヤマダ
アウトレット南砂店
10
果実の森、科学の森、南砂線路公園
樹木
科学の森
306

（3）第４・５回ワークショップのまとめ

1グループ：水車、野鳥の森、柳
区民2名、区職員2名、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ1名

・目隠しを５分間した。今まで意識していなかった自転車の音や親子の声、セミの声が耳に迫ってくるなど、わずかな５分間が心打たれる時間となった。
・水鳥を描いた。生き物の多い地区。生き物について、教えてくれる人がいたらうれしい。共通の話題から話が広がりそう。
・公園の中で見えるものや、周囲を見渡して見えるマンションなどを描いた。音や色など色々な要素がある。魅力を伝える際に要素を分けて伝えるとよいと思った。
・ヤナギを描いて、夏の終わりを表現した。
・全盲の人は、俳句でまとめた。セミの鳴き声は夏、赤トンボは秋を表す。

・川柳、短歌

水辺に立ちて　秋めく風の　声を聞く
水音に　一服の涼　いただきぬ
水鳥も　蝉も息づく　秋初
目で追いて　鳥の姿を我のため　教えし人あり　秋の一日に
秋暑し　都市公園の　遊歩道
水車廻る心に昔物語

2グループ：水車、線路
区民4名、区職員2名

・水車のところでは、江東区のよいところ、水や自然との調和を感じることができた。
・野鳥が水に誘われてくる、水の魅力が生かされている。
・トンボを見つけ幼い頃の記憶を思い出した。
・橋が広いので、小さいこどもや車いす使用者も景色を楽しむことができる。
・30 年間住んでいて、ボート池があることにはじめて気づいた。
・水がきれいに流れていて、木漏れ日が差し込みきれいな風景があった。
・貨物列車は残念ながら見られなかったが、昔からの工業と水辺が一体となった風景。
・車いす使用者は、坂などに注意が必要。楽しむには、標識などがあるとよい。
・静かで話すのにちょうどよく、江東区らしさを感じられた。

3グループ：野鳥の森、ボート池
区民3名、区職員1名

・野鳥の森では、スマホで掲示を読み上げるソフトが役立った。看板で鳥の鳴き声なども聞けるとよい。
・ボートはサポートが手厚く、障害のある人も楽しめる。
・全盲者は、スマホを使ってボートに乗ったときの様子を録音した。ボートに乗りながら、状況説明をしてもらった。
・セミがうるさく、鳥の声を聞くことはできなかった。
・ボート乗り場が意外と知られていないので、案内があるともっと楽しめる。

4グループ：動物、ボート池
区民3名、区職員2名

・水と緑と私達というタイトル。私達にはうさぎ、インコ、カモも一緒であるという意味。
・ボート場近辺で残念なこと。トイレが少なく（500m ～ 1km 間隔にしかない）多機能トイレもなかった。
・自動販売機もなかった。
・父親とこどもが虫取りをしている風景に出会った。「何をとっているのですか」と尋ねる女性がいた。
・ボートに乗る父親とこどもが多かった。「おーい」とボートに乗ったもの同士で声かけ合うのは、普段にはないボート場ならではのよいコミュニケーションだと思った。
・インコがいたなど川辺に生き物がいるのも特徴。川にあるカッパは水深を示している。

・川柳

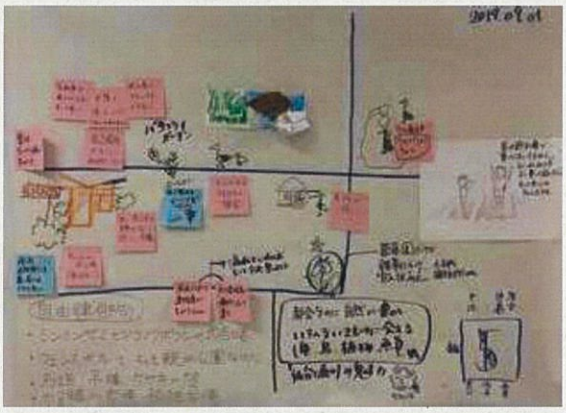
深緑と　水辺に立つと　せみ時雨
川遊び　父の楽しむ　子の笑顔
ボート漕ぐ　３歳児でも　煽りなし
夏最後　ボート動物　満喫だ
そよ風が　夏の終わりを　告げていく
夏光　緑陰水　風河童

5グループ：菖蒲園、触れるガーデン
区民3名、区職員2名

・菖蒲園があったが、雑草だらけで田んぼのようだった。
・鵜の鳴き声を聞くことができた。「ウォフウォフと鳴くんですよ」。絵は、メンバーの中に日本画の先生がいて描いてくれた。鳥の折り紙と水と緑が描かれた立体作品は、全盲者が作成した。
・バタフライガーデンは、ローズマリーなどに触ったり匂いを嗅いだりして楽しむことができる。是非訪れてみて欲しい。
・仙台堀川沿いに吊り橋がある。今まで知らなかった。
・みんなで風を感じながら俳句や考えをまとめた。
・もっと休憩できる場所や、自転車置き場？レンタル？も必要。
・川柳

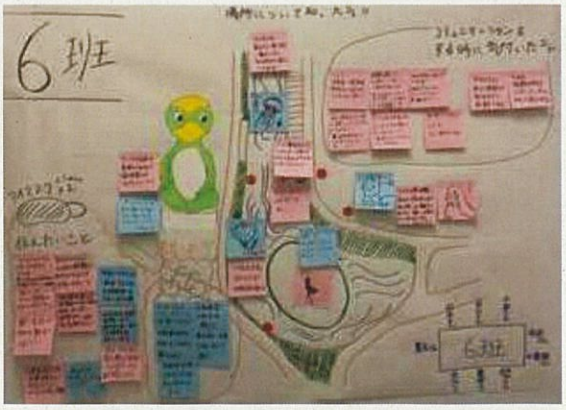
ミンミンゼミとツクツクボウシの大合唱
石垣、吊り橋、ケヤキの根
かる鴨の家族、孤独な俺

・フェンスがないと、もっと親水公園なのに



6グループ：ボート池
区民5名、区職員2名

・アイマスクを使って耳をすませてみると、ここに木があるなど色々な情報が得られた。一方、自転車の行き来がわかりづらい。特に遠くからの自転車には気づきにくかった。自転車以外にも音だけでは判断できないことがあるので、教えて欲しいという意見があった。
・弱視の人から「目の見える人は誰かを助けたくて声かけをしたいんですか」と質問された。自分が声をかけるだけでなく、声をかけられるのもうれしいと気づかされた。
・声をかけるのは日本人にとってハードルが高いので、堀の中にエイとカッパを調べに行くというテーマを設定して、みんなに助けてもらおうということにした。
・目的があると、人に話しかけやすい。同じ目標があると、話題もできるし、メンバー同士のコミュニケーションもとれていくようになる。
・スマホがあることで、人に話すことがなくなってしまったという話にもなった。
・声かけをすると、色々な情報が得られることができ、こうした作業を経て、意見を言いやすい雰囲気なり、率先して絵を書いてくれる人も出てきた。



最初の声かけについての意見

ワークショップの最初に、個人作業として、他のメンバーと初めて会った想定で、できるだけ今まで会話をしたことがない人と話してもらい、まち歩きの現場（横十間川公園）まで移動した。

会場に戻ってから、会話の最初のきっかけや、どんな会話をしたか思い出してもらい、意見交換を行った。

■はじめての人とのコミュニケーション

○声かけの最初のきっかけ

・共通項のヒントやキーワードがあるとよい。

○シチュエーションが大事

・シチュエーションの先に声かけがある。

・バスが遅れているなど、情報になりそうだ。

○自分の興味、日本の特徴

・「あの鳥なにかな？」など。

・日本の特徴について話してみる。「カメは幸運の象徴！」「赤トンボがとんだらもうじき秋だよ」「セミの鳴き声は夏の風物詩だよ！」など。

○服装・身につけているものなど

・Tシャツの文字、帽子、傘などについて褒める。「よいですね」「日焼けしていますね」など。

○天気、気候の話

・「今日は暑いですね」「今日は涼しいですね」など。

・天気は共通の話題にはなるが、すぐネタ切れになるので、次の話題を考える「フリ」として使うことがよくある。

○住まいについて

・「どこに住んでいますか」「この近くに住んでいるのですか」「どこからいらしたんですか」「地元の方ですか」「江東区にお住まいですか」など。

○出身地や生い立ち

・「どこ出身（何県、何市）ですか」「兄弟は」「どこの国からいらしたのですか」など。

○食べ物

・特に海外の人に「どんな料理が好きですか」「○○食べたことありますか」などを切り口におすすめの料理やお店の紹介など話題を広げることができる。

○共通の行ったことのある場所

・特に海外の人には「日本以外にどちらの国に行ったことがありますか」と話すことで、尋ねたことのある観光地や国の話で話題を広げることができる。

・自分と他者はすでに「今同じ場所にいる」という点では、共通しているので、そのことを話題にすればよい。「ここへはよくいらっしゃるんですか」など。

○その時の気持ちや気分について

・「不安そうですね」「涼しいですね」など。

○スポーツについて

・「運動の経験は」など。

○鳥や魚、風景など自然に関すること

・花の種類、名前や情報も分かるボードがあると、コミュニケーションが広がる。

・野鳥の島で、双眼鏡があるとその付近に立ち止まる人が増えて、コミュニケーションにもつながる。

・うさぎやインコがいるエリアでは動物を介したコミュニケーションが取りやすい。

・エイの情報（夏場（８月頃））に出没。エイは水の流れの速い野鳥の島付近で岩などに張り付いている。ボート池でも見られることがあったが、最近は見かけない。

・ほかにも６月頃にはクラゲが大量発生する。少しだが紫クラゲという毒があるクラゲもいる。学生が研究のためにクラゲを捕まえていく。

○ボート

・ボートに乗っていると、すれ違うボートと気軽にあいさつができる雰囲気がある。

・ボートに乗ると目線が変わって楽しいので、自然と開放的になる。

・このボート池は川（海）に繋がっており、そのため海の生物が池に現れること。

○撮影ポイント

・スカイツリーが見える場所があるので、撮影ポイントに良く、写真を撮るなどのコミュニケーションを取りやすい。

○釣りや趣味の活動をしている人

・鳥観察、釣り人に状況を聞く

・釣り人に「何が釣れるんですか」と尋ねると、大抵いろいろなことを教えてくれる。

・今回も「マハゼを釣っているけれど、全然釣れない。はねている魚はハゼではなくボラだよ」と教えてくれた。

・水辺で立ち止まっている人に鳥の名前を尋ねる。興味あることや趣味のことをやっている人に尋ねると教えてくれる。

・虫取りをしている父と子の会話が楽しく、「何を採っているんですか」など声かけがしやすい。

○昔話

・公園の周辺はマンションだらけだが、昔は材木屋が多く建ち並んでいたなどの、昔話をすると会話が弾む。

■分かれ際のコミュニケーション

○最後のあいさつ

・今回は何も言わなかったが、本来なら「さようなら」「ここで大丈夫ですか」「駅員さんにお願いします」など。

○お礼を笑顔で

・「ありがとうございました」「助かりました」など。

○今後につながる別れ方

・「またお願いします」「また後ほど」「また後でお話ししましょう」など。

■声かけを通じて感じたこと

○うれしい

・「声をかけて頂きうれしい」「会話が弾んでよかった」「共感をもらえるとうれしい」など。

○安心した

・勇気を出した声かけに対して共感・同意してくれると安心した。

・次に話しかけやすくなった。

・よい人だなあと思った。

○気付きがあった、学んだ

・相手しか知らない情報を聞き出せたことが収穫だった。

・話し始めれば意外と続くことがわかった。

■ワークショップを通じて気づいたこと

・障害者・健常者関係なく話しかけられるとうれしい。

・「お困りですか」も「お伺いしたいのですが」と助けられることも日本人にはハードルが高いのではないか。

・目的があると話しかけられるが目的がなくてもコミュニケーションを楽しみたい。

・声かけすると新しい情報が得られるので新鮮！新鮮さを他の人に情報共有するとコミュニケーションがもっと盛り上がる。

・スマホがあるから話しかける必要がなくなったのかな。

・今回のこの自由なワークショップに外国人がいたら身振り手振りでももっと話しかけられたのに。

・同じ作業をしていると自然とコミュニケーションが生まれる。時間が短いなりにも信頼関係が築けた。

・普段からコミュニケーションをしていると、サポートが必要な人に対してもそれほど抵抗なく話しかけられる。普段から話しかけやすい環境作りやコミュニティ作りが必要なのではないか。

・このグループはざっくばらんに話せる状況。後日グループの一人が困っている姿を見つけたら、自然と声かけをし、サポートすると思う。→普段からのコミュニケーションが声かけを促進する上で大切。

・メンバーが、声かけを通じて、また、コミュニケーションについて考えることを通じて、メンバー内のコミュニケーションが良くなったのではないか。それが今日のワークショップの一つの成果。

■声かけにネガティブになる理由

○踏み込んだ質問をしてしまうことの不安

・踏み込みすぎると「相手が嫌がるのでは」と思い、ネガティブになる。

○会話が続かなくなると気まずい

・最初の声かけはできても、次に話を展開するのが難しいので、億劫になる。

・こちらから声をかけた以上、会話を続けなければと、責任を感じてしまう。

○相手の態度

・「声をかけて欲しくないオーラ」を出している人には声をかけにくい。

○照れ臭い

■その他

○物事の伝え方や価値観

・国籍に限らず、障害も異文化コミュニケーションの一つだと実感した。

・視覚障害者には、色や触感も情報の一つなので、躊躇（ちゅうちょ）せず積極的に伝えてほしい。

○慣れる

・ワークショップで声かけをして、昼時間に家に戻ったら日常よりマンションの人と挨拶がしやすく、声かけが多くなった。

■視覚障害の方への声かけ

○目の見えない方に

・どのように声をかけたらよいかが分からない。おせっかいではないかが心配。

・視覚障害者は、積極的に声をかけてもらえるとありがたい。

○視覚障害者からの声かけ

・どうしても困っている時は「すいません！」と呼びかけるが、８割は無視される。無視されるのは嫌だから頑張っている。

・目が見えないので、話しかけている相手が人なのか物なのかわからない。「すみません」と助けを呼びづらいので、「大丈夫ですか」「手伝いましょうか」など、気軽に声をかけていただけるとありがたい。

・特に横断歩道では大丈夫そうに見えても不安なので、エスコートしもらえるとありがたい。

○視覚障害者のエスコート

・初めてだったので不安だった。

・緊張して「あっ」や「えーと」から声をかけてしまうと、逆に相手を困惑させてしまうことになると思った。⇒障害を持たれた方から、はっきりと指示していただけたのでわかりやすかった。

・大丈夫だったかな？という不安な気持ちになった

○視覚障害者への声かけ

・声をかけられた時（知っている人らしいが）声だけで誰かわからないことがある。

・「○○さん、△△です。こんにちは」と相手から最初に名前を言ってくれるとありがたい。

・話が進んでしまうと、改めて名前を聞きづらくなってしまう。⇒改めて聞かれても特に気にならないという発言があったので「さっさと名前を聞いていいんだ」と認識を共有できた。

■障害の内容を尋ねること

・人により受け取り方は様々。

・サポートするために「どれくらい見えますか」と尋ねられたりすることは問題ないが、初めての方に「いつから障害があったんですか」と聞かれると、「えっ」と思う。

・障害の内容を聞かれることには抵抗はない。（杖使用者）

・聞かれたことはないが、視線で興味を持たれているなと感じることはある。（車いす使用者）

■聴覚障害の方とのコミュニケーション

○手話通訳者を通している時

・本人同士で目線を合わせづらいので、コミュニケーションが難しい。

○聴覚障害者に声かけされても気がつかない場合がある

・声かけがないというより、手話通訳者がいない時だと声に反応ができない